

## ■ウインド Etc. (風のエトセトラ)

# 風に吹かれてエコお仕事

## ー三宅島とカナダ・ハンソン島に吹く自然の贈り物ー

株式会社 P&I PR ディレクター 富樫 純子

PR・広報の仕事でも、エコや地域振興と組み合わせたソーシャルビジネス系の仕事に携わる機会が多くあります。その中で、“風”が心に残ったお仕事を紹介します。

### ●風の島・三宅島

火山噴火で全島避難となった三宅島に住民が戻れるようになった 2005 年。天然記念物のアカコッコをはじめとする野島の宝庫であり、黒潮の北限である魚の豊富な海と独自の植物生態系を持つ三宅島が、火山灰や火山ガスの影響を受けて、再生していく自然の様子を、リアルタイムに発信するプロジェクトが立ち上がりました。ウェブ上に地図型のブログをつくり、みんなで投稿して自然マップを作ろうというものです。

まだ観光客などは行けない時期ですが、取材でまずは行ってみたいということで、船で島へ向かいます。船は大揺れ、横になっていても柱に捕まっていなくてベッドから転げ落ちそうな一夜を過ごし、着いた三宅島の栈橋では、強風のため接岸できるか否かの天候調査中。ようやく接岸したものの、火山ガス警報が出ており、ガスマスクをしての下船でした。

5 年間、人が住んでいなかった島です。うるさいほどの鳥の声、もののけ姫の森のような針葉樹。地元の小学生たちと歩いた島内はどこも映画のワンシーンのようでした。

冬は特に風が強くて波が高くなるそうで、島にふたつある港に接岸できずに、そのまま引き返す日も少なくないようです。島の方は、火山ガスが流れてくることもあり、いつも風向きを気にしていました。都会育ちの私は、天気予報でしか、自然の、天気予感を感じることができません。それからの 3 年間、三宅島に通うこと 20 回余。自然の強さと、その中で“暮らせていただいている人間”というものを考えた体験でした。



### ●カナダ・ハンソン島でオルカを探す

月夜の海にオルカ（シャチ）が泳ぐすばらしい姿を見たら、地球の自然を大事にしようと誰もが必ず思うはず。その感動を共有したい…。

カナダのバンクーバー沖にあるハンソン島に住むスポンジ博士の夢を、インターネットを使って実現しようというのがネイチャーネットワークプロジェクト。博士とその家族だけが住むほぼ無人の島にカメラを設置して、オルカの姿を 24 時間インターネットライブ中継するのです。インターネット技術の進歩によって実現したのですが、2000 年からはじまり、2003 年からブロードバンド化、IT “技術の進歩は人と自然を身近に” 近づかせてくれました。

そのオルカの海に記者を連れて行くプレスツアーを企画・同行しました。たどり着いたハンソン島の対岸は真夏というのに寒く、安物のセーターを慌てて買い込みます。ロッジやテントに泊まり、持ち込んだ食糧で自炊です。

長旅に疲れて寝込んでいた夜中、ドンドンと戸をたたいた音となにやら英語の呼び声が！何？オルカが来ているから見に来ないかと、博士が起こしに来てくれたのでした。眠い目をこすりながら行くと、真っ暗な海、何も見えません。双眼鏡を握りしめて眼を凝らしても、駄目。

うとうとしそうになりながら海を見ているうちに空が白み、暖かな朝の風が吹きました。博士の奥様が暖かいコーヒーを渡していただきます。オルカの見つからない私だけに吹いてくれた風の天使のような気がしたのを思い出します。

